

東京工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英米文化論 (教養ゼミ I)
科目基礎情報					
科目番号	0128		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	情報工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Bram Stoker, Dracula (Young Adult ELI Readers, Eli Readers)				
担当教員	櫻村 真由				
到達目標					
<p>1. 今までの英語学習で培った英語力を用いて、Bram Stoker原作のDraculaのretold版を読み、内容を理解し、まとめることができる。</p> <p>2. 授業内で扱われる19、20世紀イギリス文化について、知識や情報を得て、整理し、まとめることができる。</p> <p>3. 授業で学習したイギリス文学・文化を元に、グループでテーマ設定を行ったのち、リサーチ等を行い、その成果を発表することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	Stoker原作のDraculaのretold版を読み、内容を正しく理解し、正確にまとめることができる。	Stoker原作のDraculaのretold版を読み、内容を理解し、まとめることができる。	Stoker原作のDraculaのretold版を読み、内容を正しく理解できず、まとめることができない。		
評価項目2	19、20世紀イギリス文化について、知識や情報を得て、上手に整理し、正確にまとめることができる。	19、20世紀イギリス文化について、知識や情報を得て、整理し、まとめることができる。	19、20世紀イギリス文化について、知識や情報を得て、整理することができず、まとめることができない。		
評価項目3	授業で学習したイギリス文学・文化を元に、グループでプロジェクトを行い、その成果を上手に発表することができる。	授業で学習したイギリス文学・文化を元に、グループでプロジェクトを行い、その成果を発表することができる。	授業で学習したイギリス文学・文化を元に、グループでプロジェクトを行えず、その成果を発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 B3 JABEE (f)					
教育方法等					
概要	本ゼミでは、ブラム・ストーカーのDracula (1897年)を原作とretold版の両方を使いながら読んでいく。その際、この小説の形式や作品がかかれた19後半、20世紀初頭の文学史や文化的背景を合わせて学習する。受講者は、Draculaの担当箇所や本ゼミのテーマと関連ある事項についての発表、クラスメートと共にプロジェクトを行う必要がある。そのほか、吸血鬼を扱った小説、漫画、アニメ、映画等の大衆文化についてもリサーチと発表を行ってもらう予定である。				
授業の進め方・方法	Retold版のDracula (Young Adult ELI Readers) を主に読み進めながら、背景知識となる19,20世紀のイギリス文学を含む当時の文化について学ぶ。教科書を読むにあたって、担当者を割り振り、担当者は発表において、担当箇所のあらずし、登場人物、重要と思われるシーンや表現、担当教員が指定した原作の文章抜粋、吸血鬼を扱った大衆文化について発表を行う。作品が書かれた当時の時代背景を知るために、19、20世紀文化・文学に関するテーマについて、科目担当者の指導のもと、受講者自身が文献等を使って調査し、調査の成果をクラス内で発表するかたちで共有する。その他、授業で扱った作品に関連したグループプロジェクトを行い、その成果を発表する。				
注意点	授業に必要な連絡はKingで連絡することがある。予習をしっかり行い、発表に向けて準備をすること。受講者の状況等にに応じて、授業内容を若干変更することがある。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目で学習する事項をシラバスを元に説明を受け、把握することができる。	
		2週	Chap. 1, 担当決め、プレゼンテーションについて	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。評価に関連する課題について内容を正しく把握できる。	
		3週	Chap. 1, イギリス文学と文化#1	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。作品の形式について知識を得て、それを整理することができる。	
		4週	Chap. 2, イギリス文学と文化#2	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。作者について知識を得て、それを整理することができる。	
		5週	プロジェクトに関するグループワーク 担当教員とのカンファレンス	グループプロジェクトの発表に向けて、テーマに沿った準備を進めることができる。	
		6週	Chap. 3, イギリス文学と文化#3	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。作品の背景にある文化に関する知識を得て、それを整理することができる。	
		7週	Chap. 4, イギリス文学と文化#4	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。作品の背景にある文化に関する知識を得て、それを整理することができる。	
		8週	特別講義	Draculaに登場する音響機材についてのレクチャーを受け、課題をこなすことができる。	
	4thQ	9週	Chap. 5, イギリス文学と文化#5	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。作品の背景にある文化に関する知識を得て、それを整理することができる。	
		10週	Chap. 6, 7 イギリス文学と文化#6	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。作品の背景にある文化に関する知識を得て、それを整理することができる。	
		11週	プロジェクトに関するグループワーク 担当教員とのカンファレンス	グループプロジェクトの発表に向けて、発表準備を進めることができる。	
		12週	Chap. 8, イギリス文学と文化#7	Draculaの内容を理解し、内容に関する問題で正解することができる。作品の背景にある文化に関する知識を得て、それを整理することができる。	

	13週	プロジェクト成果発表	グループプロジェクトの成果を発表することができる。
	14週	プロジェクト成果発表	グループプロジェクトの成果を発表することができる。
	15週	まとめ	本科目で学習したことを概観し、今後の学習目標を立てることができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握に必要な情報を読み取ることができる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながらる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	25	10	0	20	20	100
基礎的能力	15	10	10	0	10	5	50
専門的能力	5	5	0	0	5	5	20
分野横断的能力	5	10	0	0	5	10	30